



教育リネサンス
食育推進プロジェクト
シリーズ①

食育リレー講座

「日本の食卓～旬を考える」



2007年 5月13日 日 13:00～15:00 (予定)

会場 | 福岡市中央区赤坂1-16-5 読売新聞西部本社1階 よみうりプラザ

主催 | 読売新聞西部本社

後援 | 内閣府、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、福岡県
福岡県教育委員会、(財)福岡県学校給食会、NHK福岡放送局、FBS福岡放送

協賛 | JAグループ福岡

ごあいさつ

〈旬〉は四季の恵み

真夏。猛暑の中で汗を流しながらスイカを食べます。口の中にひろがる冷たいおいしさは格別です。でも、最近では4月ごろから出始めています。1~4月のレタス、4、5月のタマネギも年中、スーパーや果物店で見かけるような気がします。かつては、旬の野菜や果物を食べることは、ごく普通でした。

なぜ〈旬〉が消えたのか。国の農業政策とも関係がありそうです。大規模農家の経営強化のためには、少品目・大量生産が効率的です。ハウス栽培の方が気温・天候の影響を受けにくく、出荷時期・量も調整しやすいからでしょう。「好きな時期に食べる」と消費者からも歓迎されたからでしょう。

でも、時々〈旬〉に出会いたくなります。そんな時よく、「農産物直売所」に行きます。農家が一生懸命育てた野菜や果物、花は新鮮です。それに手を加えた、お漬けもの、お総菜、味ごはん……。

大地の豊かさを味わうような気がします。安心・安全、それに低価格も魅力です。福岡県ではJA直営、3セク、民間まで含めて計235か所もあるそうです。そこで子どもたちに季節感や農業について教えることができるかも知れません。農家の人々と交流することで「安心・安全」が生まれ、低価格・高品質も期待できるでしょう。

生産者にとっても、小規模農家が参入する機会が増え、経営安定にもつながることが期待されます。「地産地消」の拠点になる可能性があります。

〈旬〉を考えることから、食の安心・安全、地域社会の今後、食の安全保障、そして食の文化といった多角的な視点が生まれます。



本日はお忙しい中、お集まりいただき、本当にありがとうございます。

読売新聞西部本社 編集委員 工藤 正彦

プログラム

- | | |
|-------|--|
| 13:00 | 主催者あいさつ
小川 直人 (読売新聞西部本社 編集委員) |
| 13:10 | 特別講演
「世界の食育・日本の食育」
猪口 邦子氏 (衆議院議員、前・内閣府特命担当大臣 食育担当) |
| 13:40 | 休憩 |
| 13:55 | パネルディスカッション
パネリスト 安河内 毅氏 (福岡県農業協同組合中央会 専務理事)
徳永 睦子氏 (料理研究家)
猪口 邦子氏 (衆議院議員、前・内閣府特命担当大臣、食育担当)
コーディネーター 工藤 正彦 (読売新聞西部本社 編集委員) |
| 15:00 | 終了 (予定) |

講師紹介

特別講演

「世界の食育・日本の食育」

猪口 邦子氏

衆議院議員
前・内閣府特命担当大臣(食育担当)

千葉県生まれ。上智大学卒、エール大学政治学博士号取得。上智大学法学部教授、軍縮会議・特命全権大使、軍縮会議(ジュネーブ)議長などをへて、2005年から衆議院議員、05年～06年内閣府大臣(少子化・男女共同参画、食育)。現在、自民党幹事長補佐(外交・国際関係担当)、同国際局局長代理などを務めている。主な著書は「戦争と平和」、「戦略的平和思考」など。



■ 猪口 邦子氏 衆議院議員、前・内閣府特命担当大臣(食育担当)

コーディネーター

工藤 正彦 読売新聞西部本社 編集委員